

会 議 概 要

第2回 【常盤校区】学校適正化に向けた校区懇談会

《開催日》令和4年9月9日（金曜日）
《時 間》19：30～21：00
《場 所》常盤地区公民館 講座室2
《参加者》地域参加者：6名 教育委員会事務局：5名

<議題等>

- 1 開会
- 2 事務局挨拶
- 3 懇談会参加者・事務局の紹介
- 4 議題
 - (1) 事務局からの説明事項について
 - (2) 意見交換

事務局	(別添資料に沿って内容を説明)
参加者	「4-3-2」という学年区分について、これまでは小学生、中学生という呼び方をしていたが、新たな区分ではどのような呼び方・分け方をしているのか。
事務局	本日紹介した事例は、小中9年間で1つの学校として運営する義務教育学校であるが、この場合、6年生の次は7年生、その後8年生、9年生と進級していく仕組みになっている。小学生・中学生という区切りではない。
事務局	義務教育学校とは、平成28年施行の法改正により制度化された、小学校でも中学校でもない、新たな学校の形態である。
参加者	義務教育学校の場合は、「学園生」ということで、従来の呼び方はしていないという理解でよいか。
事務局	学校や自治体にもよるが、実際は他の学校との兼ね合いもあり、小学生や中学生という従来の呼び方をしているケースもあるものと捉えている。 なお、義務教育学校や小中一貫校での学年区分について説明したが、現時点でどの区分が望ましいものであるとか、岸和田市でどの区分を取り入

	れるなどといったことは未定であり、本日はあくまでも事例紹介と捉えていただきたい。
参加者	いずれどこかのタイミングで、こうした新たな学年区分を採用するかどうかを決定するということか。
事務局	現在は「案」として施設一体型小中一貫校の設置を示しているところだが、学校形態や区分についても、今後地域や保護者の皆様からのご意見も踏まえながら決定していきたい。
参加者	再編に伴い、学校の名前は変わるのか。
事務局	義務教育学校なら小・中別ではなく1つの学校名になるなど、今後の協議次第で変更の可能性はある。ただし、学校名を決めるのは（仮称）学校開校準備委員会設置後の段階。
事務局	他市事例をみると、児童生徒、地域や保護者の皆様からアイデアを募集しているケースが多いように思う。その後候補を絞り込むなどして、最終的には議決を得て正式に名称が決まることとなる。
参加者	他校区の懇談会設置状況や協議状況を教えてほしい。
事務局	<p>まず（仮称）葛城小中一貫校関係校区として、常盤校区同様、通学区域の見直しをお示ししている旭・太田校区で、来週に第2回懇談会を開催する予定。東葛城校区では、懇談会の設置に向け、現在メンバー等を調整している。修斉校区では、昨日9月8日に第2回懇談会を開催するなど、議論を継続している。天神山校区でも懇談会設置に向けて調整していたが、結果的に校区から合意を得ることができず、現時点で未設置の状況。ただし教育委員会としては、いつでも設置に向けた協議に応じる姿勢である。</p> <p>次に（仮称）山滝小中一貫校関係校区として、山滝校区では第1回懇談会を開催し、現在は来月の第2回懇談会開催に向けて準備中。山直南校区については、天神山校区と同じく、懇談会設置に至っていない状況。</p> <p>山直北・城東校区については、地区市民協議会を2校区合同で運営されていること等から、1つの校区として懇談会を設置しており、先日8月24日に第2回懇談会を開催したところ。</p> <p>天神山校区及び山直南校区が懇談会の設置に反対の中、協議もなく無理</p>

	<p>やりに再編を進めることはできないと考えており、両校区における取組は一時保留状態となっているが、懇談会を設置いただいた校区においては、子どもたちにとってより良い教育環境の整備と学校教育の充実に向け、賛否問わずに様々な意見交換を継続していきたいと考えている。</p> <p>なお、校区によっては教育だけでなく、まちづくり全体に関するご意見等もあることから、議題によっては教育委員会以外の関係部局職員が出席することも想定している。</p> <p>今後、仮に校区懇談会での議論をし尽くしたという段階になれば、その時点で懇談会の開催をひと段落させる可能性もあるが、そのあたりも含めて、参加いただいている方々との協議次第だと考えている。</p>
参加者	一部校区で懇談会を設置できていない理由はどのようなものか。
事務局	天神山校区及び山直南校区では、懇談会設置に向けた条件として、現実実施計画（案）の白紙撤回を求められているため。
参加者	山直南校区では、校区内の町会すべてが現実実施計画（案）に反対の意向を示していると聞いている。
事務局	山直南校区では、岸の丘町の住宅開発・まちづくりが進む中、一時的に児童数が増加する見込みとなっている。そのこと自体は教育委員会も認識しているが、ピークを迎えて以降は再び児童数が減少傾向に転じると見込んでおり、現時点から協議を始めたいと考えている。ただ、地域としては更なる地域発展を想定される中で、考え方の乖離が大きい。そのあたりも懇談会の場ですり合わせていきたかったが、現実には懇談会設置に至っていない。先ほども述べたが、無理やり進める取組だとは考えていないため、一時保留状態にある。
参加者	やはり小学校の閉校を伴う校区では難しい取組なのだろうと思う。
事務局	<p>それだけ各小学校が地域に根差しており、地域の皆様に大切にしていたきてきたということだと捉えている。一方で、人口及び児童数が減少していく見込みの中、いざ複式学級の発生が直近に見込まれたとしても、すぐに再編には至らないため、教育委員会としては現時点から取組に着手しなければならないと考えている。</p> <p>各地域からは、学校再編以前に、人口減少自体に対して手を打つ必要が</p>

	<p>あったのではないかというお叱りの声も受けることもある。本市行政としても、これまで人口減少を抑える施策に取り組んできたところであるが、国全体の少子化傾向もあり、V字回復には至っていない。</p>
参加者	<p>理解を求めていくことが難しい取組だとは思いますが、各校区の足並みが一定程度揃わなければ再編が実現できないのでは。</p>
事務局	<p>校区によって今後の協議進捗に差が生じることも想定されるが、都度、校区毎の状況について市長や教育長を含めて共有し、方向性を判断していくことが必要になるものと考えている。</p>
参加者	<p>1校ずつ取り組んでいく可能性もあるということでしょうか。</p>
事務局	<p>協議の進捗状況により、案で示す3つの学校の開校時期に影響することも想定されるが、現在懇談会を設置いただいている校区からのご意見等については、再編以外の内容も含め、より良い教育環境を実現するために活かしていきたいと考えている。</p>
参加者	<p>修斉校区からはどのような意見が出ているか。</p>
事務局	<p>小中一貫・幼小連携教育や、泉州山手線延伸を含めたまちづくり全般についてのことなど、様々なご意見やご質問を受け、話し合う内容が膨らみつつある。教育の中身に関しても、次回以降の懇談会で協議することがまだあるものと考えている。</p>
参加者	<p>賛否それぞれあるということか。</p>
事務局	<p>現状、明確に賛成という意見は少ないが、ここまで開催した修斉校区懇談会の内容からは、単に反対だというだけでなく、教育のあり方について前向きな議論をしていただいているものと捉えている。</p>
参加者	<p>前回懇談会で出た意見を踏まえて「調整区域の設定」という方向性を示していただいたことに感謝する。一点確認だが、門前町会としてどちらの校区に属して活動するといったことはまた別の話ということでしょうか。</p>
事務局	<p>今回お示した方向性の案は、門前町について従来校と（仮称）葛城小</p>

	<p>中一貫校のどちらも選択できる調整区域を設けるといものだが、その区域にお住まいの方が門前町会に加入するのか、しないのか、または他のコミュニティで活動するのかといった点について介入することはない。コミュニティ活動自体については従来同様、自治振興課を中心に、行政としての支援を続けていくという考え方である。</p>
参加者	<p>町会に入っている方ばかりではなく、入っていない方もいる中で、門前町会としてすべての意見を集約することは難しい。</p> <p>例えば、現在光明小学校を選択できる調整区域は、門前町3丁目にあたるが、町会に入っていない方が多いので、町会として意向を確認できない。</p>
参加者	<p>町会としては、本日の話し合いの内容等を町会員に共有しつつ、決定すべき事項があれば町会として決めていくということになるが、町会に入っていない方への情報提供や意見集約等は町会では困難なため、教育委員会にて行っていただきたいところ。</p>
参加者	<p>今回、教育委員会としての方向性案を示していただいたところなので、門前町会としては一旦持ち帰って話をしようと考えている。</p>
参加者	<p>教育委員会として子ども目線に立ちつつ、地域側に一定歩み寄っていただいたものと考えている。学校を選択できることは良いことだと思うし、通学区域の件については少し前進したのではないか。</p>
参加者	<p>前回、葛城校区と山滝校区だけでなく、市域全体として小中一貫校を拡げていくといった話があったと思うが、今後の展望はどうか。</p>
事務局	<p>小中一貫“校”と小中一貫“教育”とは異なる。過去から長きにわたり実施してきた小中連携教育から、中学校区で一つの「めざす子ども像」を立て、系統性と連続性を持った教育に発展させようという取組が小中一貫教育であり、岸和田市小中一貫教育基本方針に基づき、岸和田市の全11中学校区で取り組むもの。小中一貫教育については、小中一貫校の設置有無に関わらず、全市的に取り組んでいく。</p>
参加者	<p>その場合、これまでのように1つの中学校に対して複数の小学校が存在するという形態も有り得るのか。</p>

事務局	そのとおりである。
参加者	小中一貫教育と、現在の教育とは何が異なるのか。
事務局	<p>小・中学校間における個々の連携は現時点でも実施しているところだが、小中一貫教育ではそこから発展させ、例えば桜台中学校、常盤小学校、光明小学校で共通する一つの目標を定め、同じ方向性で子どもたちを育てていく。</p> <p>なお、桜台中学校区での実践事例として「立腰（姿勢を正す）」がある。小学校から実施してきたので、中学校の入学式時点で既に「立腰」という声掛けに反応して姿勢を正すことができた。この取組はあくまでも例の一つだが、こうした中学校区共通の取組をより強固にしていきたいという考えである。</p>
参加者	例えば私立中高一貫校だと、中学3年生時点で高校生が学ぶ内容を先取りして習うといったことがあると思うが、小中一貫教育ではどうか。
事務局	小学校、中学校で学年ごとに学ぶ内容は、学習指導要領で定められているため、先取りしての学習ということはできない。そのため、仮に途中で転校が生じた場合でも、学ぶ内容の差や不公平が生じることはない。
参加者	では、小中一貫教育で取り組む内容は、国で定められた範囲の外、例えば先ほどの立腰や5分間読書といったことになるのか。
事務局	まずは中学校区としてどのような「めざす子ども像」を立てるのか、というところから検討する。
事務局	小中連携教育から小中一貫教育に発展させることで、中学校区としての方向性が定まり、教員としても小学校6年間だけ、中学校3年間だけではなく9年間を見通しながら子どもたちに接することが期待できる。
参加者	生徒指導の面でも有利だと思う。
事務局	付け加えると、支援が必要な子どもたちにとっても、身近に目標となる先輩のお兄さんやお姉さんがいるということは、成長を促す上で非常に望ましいことだと捉えている。

参加者	それは施設一体型小中一貫校の方が望ましいという話なのか。
事務局	<p>日常的な交流が容易となるため、より望ましいものと考えている。</p> <p>また、小・中の職員室が一体化している先進事例を視察したことがあるが、教員も一体となって子どもたちに接する意識が醸成されたと同った。これも施設一体型小中一貫校の利点だと考えている。</p>
事務局	<p>一方、これまでには「小中一貫校で、小学生が中学生から悪い影響を受けるのでは」といった心配の声を伺うこともあった。そのようなご意見についても真摯に受け止めた上で、学校再編に関わらず、市全体として中学生への適切な指導に努めていく。</p> <p>先進事例からは、施設一体型小中一貫校に移行したことをきっかけに、中学生が小さな子どもと接する機会が増え、いわゆる荒れた状態が改善されてきたということも伺った。小学生の立場からも、中学生の学校生活を身近に感じていることにより、進学不安が和らいだと同っている。</p> <p>小中一貫校への移行に際しては課題もあると捉えているが、やはり利点があるからこそ、全国的にも事例が増加しつつあるのだろうと考えている。</p>
参加者	大勢の中に入っていくことが苦手な子どももいると思う。
事務局	小中一貫教育に取り組みながらも、そのような子どもたちにも光を当てられる体制はしっかりと維持しなければならないと考えている。
参加者	<p>「教育は国家の礎」といわれるように、教育や保育には十分にお金をかけるべきだと考えているが、保育については順次民営化を進めてコストを削減する方向で取り組んでいるように思う。小中学校再編の取組も、コスト削減の一環ではないかという疑念がある。</p> <p>山滝小学校は非常に児童数が少ない中、例えば全国学力学習状況調査では良い結果を残していると聞く。ただ、どうしても費用対効果でいえば難しい面があると思う。一方で常盤小学校のような学校規模では、費用対効果の面で優れているといったことが言えると思う。そういったことを踏まえての取組なのか。</p>
事務局	まず、この取組は財政面でのメリットを創出するためのものではなく、子どもたちの教育環境を充実させることが主眼の取組である。なお、仮に

事務局	<p>学校が閉校した場合、校舎の維持修繕費用等を含めたランニングコスト削減の効果も一定生じるとは思われるが、そうした効果額は子どもたちの教育のために再投資する方針である。これは教育委員会だけでなく、市長も了承している方向性である。</p> <p>岸和田市では、学校規模の大小と、学力の高低についての相関関係はみられない。学校規模に関わらず、教員が子どもたちにしっかりと授業を提供することが大切だと考えている。また、問題行動の発生件数についても学力同様に相関関係はみられない。</p> <p>学力とは全国学力学習状況調査の結果だけで計られるものとは捉えておらず、コミュニケーション能力等、数値では計れないものも多く存在すると考えている。そうした目に見えない部分も含めて育てていくことが大切。</p>
参加者	<p>前回の懇談会で、常盤校区内で門前町だけが学校を選択できないことが不公平ではないかという旨を意見した。今回、調整区域を設定する方向性で示していただいたことは良いことだと思う。</p> <p>一方、保護者と話す中で、子どもが学校を選択するとなった際に、従来の常盤小学校・桜台中学校か、新たな小中一貫校のどちらを選ぶかが悩ましいという意見も聞くところ。</p> <p>門前町内の新興住宅地では、過去に自治会が存在していた。現在はなくなっているが、周囲にも町会に加入している方や、以前自治会に加入していたが、現在はそのまま町会に加入していないという方等、様々な方がいる。その中で、この取組についての情報周知度も異なる印象。</p> <p>話し合い自体は良い方向に向いていると感じているが、町会加入者以外への幅広い情報周知ができればより望ましいと思う。</p>
事務局	<p>情報は積極的にオープンにするという姿勢で、逐一ホームページを更新するなどしているが、周知が行き届いていないのではというご指摘について、他校区で実施した懇談会でも受けたところ。</p>
参加者	<p>ホームページはどうしても見にくい点もある。広報誌の一面に掲載するといった方策が望ましいのでは。</p>
参加者	<p>自分から情報を取りに行くという姿勢でなければ、なかなかホームページにアクセスするという事もない。</p>

参加者	手法を拡大しても、情報を見てもらうことはなかなか難しいように思う。
事務局	ご指摘いただいたことを受け止め、更なる情報周知に努めていきたい。
参加者	もっとPRした方が、取組自体も動きやすくなるのでは。
参加者	門前町にお住まいの方の中でも、こうした取組について知らない方がいると思う。そうした方へはどのように周知するつもりだったか。
事務局	<p>各校区で懇談会を開催するたびに、当日資料と合わせて議事概要をホームページで公開してきたところだが、先ほどからのご指摘もあるとおり、より多くの方に情報を見てもらうことは難しい面がある。</p> <p>町会加入者だけでなく、例えばこれから子どもを学校へ通わせる就学前児童の保護者等に対して、別途周知策を講じる必要がある。なお、地域説明会を開催する際には、小中学校を通じて保護者宛のチラシを配布しており、岸和田市公式スマホアプリ「きしまる」を通じた発信なども試みてきたところ。</p>
参加者	幼稚園や保育所といった施設への情報発信はどうか。
事務局	地域説明会の開催前には、学校同様、民間園を含めた就学前施設を通じて保護者宛のチラシを配布した。
参加者	調整区域に住む保護者が選択する学校と、町会として属する校区とはリンクしないということではどうか。
事務局	そのとおりである。現在、門前町内には調整校として光明小学校を選択できる調整区域が存在するが、その取り扱いと同様となる。
参加者	まずはこの方向性について、門前町内に周知していく必要がある。
参加者	町会加入者は、現在も見守り隊等で活動されている方が多い。町会としては、そうした繋がりがバラバラになることを避けたい。
参加者	通学区域の見直しだけでなく、小中一貫校の設置自体が非常に難しい取

	組のように感じている。
事務局	小中学校はすべてこれまで地域に密着してきた存在であり、どの自治体であっても学校再編という取組は非常に難しいものだと捉えている。教育委員会としても、一朝一夕で達成できるような取組だとは考えていない。
参加者	自治振興課はこの件に当初は絡んでいなかったのか。
事務局	自治振興課や、それ以外にも防災に関わる危機管理課、まちづくり関係部局等、多くの関係課と協議した上で実施計画（案）を皆様にお示しするに至っている。
参加者	天神山小学校や修斉小学校といった学校が閉校になる案ということで、特に天神山校区では、これまでのやり取りの記録等をみる限り、取組を進めていけないのではと思う。 質問だが、今回の案で新たに開校する学校はすべて特認校になるのか。
事務局	（仮称）葛城小中一貫校と（仮称）山滝小中一貫校については特認校とする案をお示ししている。（仮称）山直小学校はそうではないため、すべて特認校にする計画ではない。
参加者	それは（仮称）山直小学校の人数が理由か。
事務局	特認校に指定する学校は、ある程度絞る必要があると考えている。あまりにも多くの学校を特認校に指定すると、実質的に通学区域を撤廃するようなことになる。
参加者	スクールバスの導入はどのように考えているのか。
事務局	スクールバスのルートや台数、対象者といった事柄は、（仮称）学校開校準備委員会を設置し、そこでの議論を踏まえて定めていく。
参加者	例えば市内の他校に就学している途中で、何らかの理由により特認校に転入するといったことは可能なのか。
事務局	学期中の特認校転入は認めていないが、学年が変わるタイミングについ

	<p>ては可能。現在の東葛城小学校では募集時期を定めており、定員にもよるが、例えば3年生から東葛城小学校へ転入するといったことも実際にある。</p>
参加者	<p>元々の学校に馴染めなかった中で、環境を変える先として特認校を選択するというイメージがある。従来ならば、私立の学校に転校していたところを、公立の特認校が受け入れてくれるということ自体は良いことだと思うが。</p>
事務局	<p>東葛城小学校の特色として、自然豊かな環境や、それを活かした体験学習があり、そうした特色を求めて転入していただいているものと捉えている。自然豊かな環境で学ぶ中で、以前より学校へ行くのが好きになった、といったことはあるかもしれない。</p>
参加者	<p>天神山校区について、最後の最後までこの案を承諾することはないのではと思う。その場合、(仮称)葛城小中一貫校の設置に向けて動き出すことはないのか。</p>
事務局	<p>現実施計画(案)をどうするのかといった点については、懇談会を設置できている校区での協議内容も踏まえながら判断することになる。</p>
参加者	<p>現状では5年では進まず、10年以上かかるのではないかとすら思う。例えば天神山小学校を一時的に置いたまま、他の校区で再編を開始することもフレキシブルに考える必要があるのではないかと思うが。</p>
事務局	<p>子どもたちの教育環境充実を主眼とした取組であるため、そのような部分的な再編が、そこで学ぶ子どもたちにとって望ましいのかどうかという視点に立って判断をしていく必要があるものと捉えている。</p>
参加者	<p>教育委員会としては教育環境を優先されるだろうが、一方で行政全体としては小規模校を維持していくこともできないだろうし、どの程度のスピード感を想定しているのかが気になり、質問させていただいた。</p> <p>小中一貫教育について、例えば各中学校区を束ねる「統括校長」のようなポストを設置して進めていくことはどうか。また、そのポストには一部民間の人材も含めて募集するなど、様々な特色を持った取組をすることも一つの案だと思う。</p>

事務局	<p>質問だが、「5-4 制」の事例にあった京都市立東山泉小中学校について、校舎が約 750m 離れているとある。これは敷地も分離していて、両校舎の間に民家等が建ち並んでいるという認識でよいか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
参加者	<p>そうであれば、小学校と中学校が離れている状況は変わらず、そこを統括する校長がいるということだと思う。分離しての小中一貫教育ではなく、例えば1つの学校でありながら、東と西の校舎で同じ学年の児童生徒を別々に在籍させ、それぞれが積極的に交流、切磋琢磨することで成長していくというやり方もあると思う。</p> <p>年長者が年少者を見守るという考え方も必要とは思いますが、やはり同級生同士での切磋琢磨を促すことが大切。中学校に小学校を集約して小中一貫校にするだけではなく、極端な例ではあるが、現小学校に中学校を分割し、小規模でも小中一貫校とすることで、現中学校敷地は巨大なグラウンドとして整備した上で地域や各学校が使うといった方策など、小学校の閉校に拘らない様々な方策を考えていくことも必要ではないかと感じている。</p>
事務局	<p>教育委員会だけでは思いつかないアイデアだと思う。「こうした再編の方が望ましいのでは」というご意見をいただくことはありがたい。</p>
参加者	<p>今のアイデアは統廃合だけの話より面白いのでは。</p>
参加者	<p>本日教育委員会から示された、調整区域設定の件については、一旦持ち帰り町会内でも話をさせてもらう。</p>
事務局	<p>承知した。今この場で結論を出すものとは捉えていない。今後ともよろしく願います。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>